

2024 年度浦安キャンパス
大学院学生による
授業評価アンケート実施結果

浦安キャンパス研究科連絡・調整会議

1 アンケートの概要

(1) 目的

浦安キャンパス大学院のファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント活動の一環として、本学の教育の質的改善に役立てることを目的とし、大学院学生による授業評価アンケートを実施した。

(2) 実施期間

2024年6月24日（月）9：00～7月6日（土）23：59

(3) 実施対象授業科目等

アンケート実施期間中に開講している専任教員が大学院で担当する授業科目(特別演習、特別研究及び履修者2名以下の科目は除く。)のうち、専任教員1人あたり履修登録者数が最多の1科目

なお、1つの授業科目を複数教員で担当している場合は、当該授業科目の代表教員を授業担当教員とした。

(4) 実施方法

ア アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答した。

イ 教員は、アンケート実施期間中の該当授業においてアンケート回答の時間を設けることができることとした。

(5) 集計結果分析及び授業改善策等について

授業担当教員はアンケート集計値をWebポータルシステムから確認し、集計結果分析及び授業改善策(現状の説明・課題及び改善点・学生向けコメント)を浦安キャンパス研究科連絡・調整会議委員長に提出した。

※ 授業ごとの集計結果分析及び学生向けコメントについては「2 集計結果分析(P.4～15)」のとおり。

(6) アンケート項目

1	あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
2	あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
3	教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない

4	教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
5	授業の内容をよく理解できましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
6	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
7	この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
8	この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか
	満足 / やや満足 / どちらともいえない / やや不満 / 不満
9	この授業はあなたの大学院入学の目標達成に関してどんな意味を持ちましたか (自由記述)。
10	この授業について改善すべきと考えられる点があったら書いてください (自由記述)。

(7) アンケート実施科目及び回答者数

実施対象科目数：16 科目

回答者数：97 名〔対象者数（履修者数）107 名〕

研究科	科目名称	氏名	対象者数	回答者数
応用言語学研究科	応用言語学特論	中川 仁	12	12
応用言語学研究科	日本語教育方法特論	田川 麻央	10	10
応用言語学研究科	日本語教育教材特論	片桐 史尚	11	10
応用言語学研究科	日本語教育学特論	木山 三佳	9	7
応用言語学研究科	日本語学特論	佐々木文彦	10	10
応用言語学研究科	現代中国語文法特論	曹 泰和	4	4
経済学研究科	ミクロ経済学特論	廣部 恒忠	7	6
経済学研究科	実証分析特論	中澤 栄一	7	7
経済学研究科	研究・論文技法演習	影山 純二	7	6
経済学研究科	社会保障特論	下田 直樹	5	5
不動産学研究科	都市空間マネジメント特論	前島 彩子	6	4
不動産学研究科	不動産企画・経営特論	中城 康彦	3	2
不動産学研究科	不動産研究方法論	斎藤 千尋	6	6
不動産学研究科	不動産数理の基礎演習	表 明榮	3	3
不動産学研究科	居住環境マネジメント特論	小杉 学	3	2
不動産学研究科	建築計画特論	藤木 亮介	4	3
合 計			107	97

2 集計結果分析

(1) 応用言語学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	56
回答者数(のべ)	53
回答率	94.6%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	8		15.1%		
2時間以上3時間未満	9		17.0%		
1時間以上2時間未満	15		28.3%		
30分以上1時間未満	7		13.2%		
30分未満	9		17.0%		
ほとんどしなかった	5		9.4%		
					53
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	7		13.2%		
2時間以上3時間未満	2		3.8%		
1時間以上2時間未満	20		37.7%		
30分以上1時間未満	9		17.0%		
30分未満	10		18.9%		
ほとんどしなかった	5		9.4%		
					53
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか					
強くそう思う	42		79.2%		
そう思う	11		20.8%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		
					53
(4) 教員の説明は分かりやすかったですか					
強くそう思う	42		79.2%		
そう思う	11		20.8%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		
					53

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか			
強くそう思う	36		67.9%
そう思う	17		32.1%
どちらともいえない	0		0.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			53
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか			
強くそう思う	43		81.1%
そう思う	10		18.9%
どちらともいえない	0		0.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			53
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか			
強くそう思う	41		77.4%
そう思う	9		17.0%
どちらともいえない	3		5.7%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			53
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか			
満足	49		92.5%
やや満足	4		7.5%
どちらともいえない	0		0.0%
やや不満	0		0.0%
不満	0		0.0%
			53

【研究科の総評】

大学院における授業は、本研究科の必修科目である「応用言語学研究法特論」（担当教員の海外研究に伴い、2024年度は後期に開講されることとなっている。）及び「応用言語学特論」を主軸とし、それ以外の授業科目も以下のように開講されている。

2024年度の開講科目は、日本語教育方法特論、日本語教育教材特論、日本語教育学特論、中国語教育方法特論、一般言語学特論、異文化コミュニケーション特論、対照研究特論、日本語学特論、現代中国語文法特論、中国中世文化特論、中国古典文学特論、中国現代文学特論、通訳理論特論である。そして、今年度における授業アンケートについての分析を以下のように提示する。

本研究科では、基礎言語学を学ぶことにより、それぞれの専門分野における研究方法との関連性という視点を重視し、各分野における基礎的な項目を網羅する形で学ぶことにより、論理的な思考を主軸とし、それぞれの専門的な研究へと繋げていくということを主眼としている。またこれらの学びは、研究を進めていく上で必要不可欠なものであり、研究の根幹をなすべきことがらであるということも、院生諸君には、理解していただきたいところである。これらを踏まえて、以下のようにアンケート調査の結果をもとに見解を加える。アンケート調査をもとに、院生たちが、授業の予習にかかる時間は、1時間から2時間ということになっていることから、一科目にかかる時間はかなり短いということが分かった。また、復習についても、1時間から2時間ということで、こちらも短いという印象であり、履修上、ほかの科目との整合性などを含めると、妥当な時間なのかもしれないということが理解できる。そして院生自身が、時間的な配分を考慮し、自らが時間を設定し、その授業に取り組んでいることが、結果として理解できた。教員の授業についても、その取り組みは、時間をかけて授業を準備し、研究への取り組みをも示唆することがらをも網羅し、授業を組み立てていることから、その授業の説明についても、きちんと提示していることが、十分に理解できる。院生への授業は少数であるため、専門的な基礎事項を含め、各分野における論文の紹介、先行研究の整理の仕方、最新といわれる研究動向への示唆も含め、授業のなかで、それをより良い方向として導き、論文を作成させるための力を養っていることがよく理解できた。それは教員が授業に対する熱意であり、研究をしていくための姿勢である。そして教員も研究をしている姿勢を院生諸君に、提示していかなければならない。院生からの質問に対することがらについては、的確な指導を含め、課題への解決策を提示している。授業を受けて、院生の研究への取り組みが、また意欲が増したという点についても、教員の研究への助言、研究方法の提示、その研究方法への導きが的確であり、各研究分野に援用できる方策があるということが理解できる。それぞれの分野での授業の満足度についても、教員は十分に授業及び研究に対する姿勢を提示していることがうかがえる。研究には時間を要するものであり、各分野においての専門家である教員は、院生の研究分野を把握し、適切な助言と的確な研究への導きをおこなっていることが分かった。最後に、どちらともいえないという意見については、院生の研究に対する戸惑いを提示しているのではないかと思われる。また、やや不満という意見についても、同等の意見であると理解する。これらについては、指導教員と研究の進め方を相談していくことによって解決されるものであり、今後の動向に期待するものである。現状について本研究科ではきちんと受け止め、アンケート調査の結果を把握していく。

応用言語学研究科長
中川 仁

【学生向けコメント】

応用言語学特論
院生諸君においては、アンケートを通じて、言葉の研究手法やそれ以外の関連領域の分野も理解できたと思われる。しかし、まだ研究が始まったばかりの段階であるため、文献の探し方、分析の仕方、それ以外の方策も含め、少しずつ理解を深めていく必要がある。今後の研究分野との関連、そして関連論文との関係性なども含め、その能力を身に着けていくことも同時に考えていく。
日本語教育方法特論
これまで示した参考文献を積極的に読んで日本語教育に関する知識を自主的に増やすことが大切だと思います。
日本語教育教材特論
「教材という授業でしたが、その分野にまだ中心になっていないようですが、・・・・・・」
日本語教育学特論
丁寧に準備を進めることができていました。
日本語学特論
みなさんそれぞれに興味深い話題を提供してくれています。
現代中国語文法特論
前期の授業では、事前にしっかりと準備し、授業中に積極的に質問して下さったことが、とても良かったです。

(2) 経済学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	26
回答者数(のべ)	24
回答率	92.3%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	9		37.5%	
2時間以上3時間未満	6		25.0%	25.0%
1時間以上2時間未満	8		33.3%	33.3%
30分以上1時間未満	0		0.0%	0.0%
30分未満	1		4.2%	4.2%
ほとんどしなかった	0		0.0%	0.0%
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	7		29.2%	
2時間以上3時間未満	7		29.2%	29.2%
1時間以上2時間未満	9		37.5%	37.5%
30分以上1時間未満	1		4.2%	4.2%
30分未満	0		0.0%	0.0%
ほとんどしなかった	0		0.0%	0.0%
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか				
強くそう思う	17		70.8%	
そう思う	7		29.2%	29.2%
どちらともいえない	0		0.0%	0.0%
そうは思わない	0		0.0%	0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%	0.0%
(4) 教員の説明は分かりやすかったですか				
強くそう思う	16		66.7%	
そう思う	8		33.3%	33.3%
どちらともいえない	0		0.0%	0.0%
そうは思わない	0		0.0%	0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%	0.0%

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか														
強くそう思う	16	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>66.7%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>33.3%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	66.7%	そう思う	33.3%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%	66.7%	
強くそう思う	66.7%													
そう思う	33.3%													
どちらともいえない	0.0%													
そうは思わない	0.0%													
全くそうは思わない	0.0%													
そう思う	8	33.3%												
どちらともいえない	0	0.0%												
そうは思わない	0	0.0%												
全くそうは思わない	0	0.0%	24											
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか														
強くそう思う	17	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>70.8%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>29.2%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	70.8%	そう思う	29.2%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%	70.8%	
強くそう思う	70.8%													
そう思う	29.2%													
どちらともいえない	0.0%													
そうは思わない	0.0%													
全くそうは思わない	0.0%													
そう思う	7	29.2%												
どちらともいえない	0	0.0%												
そうは思わない	0	0.0%												
全くそうは思わない	0	0.0%	24											
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか														
強くそう思う	16	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>66.7%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>33.3%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	66.7%	そう思う	33.3%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%	66.7%	
強くそう思う	66.7%													
そう思う	33.3%													
どちらともいえない	0.0%													
そうは思わない	0.0%													
全くそうは思わない	0.0%													
そう思う	8	33.3%												
どちらともいえない	0	0.0%												
そうは思わない	0	0.0%												
全くそうは思わない	0	0.0%	24											
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか														
満足	19	<table border="1"> <tr><td>満足</td><td>79.2%</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>20.8%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>不満</td><td>0.0%</td></tr> </table>	満足	79.2%	やや満足	20.8%	どちらともいえない	0.0%	やや不満	0.0%	不満	0.0%	79.2%	
満足	79.2%													
やや満足	20.8%													
どちらともいえない	0.0%													
やや不満	0.0%													
不満	0.0%													
やや満足	5	20.8%												
どちらともいえない	0	0.0%												
やや不満	0	0.0%												
不満	0	0.0%	24											

【研究科の総評】

今回も web ポータルによる授業評価アンケートであったが、回答率は 92.3%と昨年度の 82.6%を 9.7 ポイントほど上回った。昨年度、学生（院生）数が増えたことに加え、アンケートに関する周知が十分でなかったとの反省から、授業や演習での周知徹底や、中には授業中に一定の時間を設けてアンケートを実施する教員もおり、これが回答率上昇に繋がったと考えられる。

また、今回もアンケートの回答結果から、学生（院生）と教員との信頼関係は総じて良好であるとの印象を持った。

まず授業外研究（学修）時間については、これも前回とは異なり、予習では 3 時間以上が 37.5%と最も多く、2 時間以上 3 時間未満も 25.0%、1 時間以上 2 時間未満も 33.3%で計 95.8%に達する。昨年度前学期には、30 分以上 1 時間未満という回答も 22%、30 分未満という回答も 2.4%あったが、今回は、両方合わせても 4.2%と、予習に多くの時間を割いていることがわかった。また、復習時間についても、3 時間以上を含め、1 時間以上を復習に充てている学生（院生）が 95.8%に達し、これに履修授業数を掛けるとかなりの学生（院生）が多くの時間を授業外研究（学修）に充てているようで、研究を主たる目的とする学生（院生）であるから、ある意味、当然ではあるが、好ましい傾向といえる。

次に、教員の授業に関する項目では、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 100%に達し、特に授業の満足度については、「強くそう思う」が 79.2%と高く、アンケートに回答した全ての学生（院生）が自身の履修・受講する授業科目について概ね満足しているという評価結果であり、大変よかったと感じている。全体として見ても、授業を受講することで、研究への意欲が増進したことはまず間違いのないといえよう。総じて教員の意欲や熱意が感じられたという回答がほとんどで、これは日頃の大学院授業担当教員の努力の結果と思われる。

以上、調査対象の授業科目は多くの学生（院生）から良好な評価を受けていると判断可能であり、これを今後も継続する努力が一層、望まれると考える。

新型コロナ・ウイルス感染症も再び、流行の兆しも見せているようで、罹患（感染）した学生（院生）もちらほら出てきているが、今回のコロナ禍の経験を活かして、manaba や Zoom も併用しつつ、いわゆるハイブリット型の授業や演習も行われ、研究科の教育と研究指導の質を高める努力も行われている状況である。

（経済学研究科長 下田 直樹）

【学生向けコメント】

ミクロ経済学特論
履修上の注意点など、今後の学修の参考になれば幸いです。
実証分析特論
毎回の課題をきちんと提出した履修者の人たちは、すでに修士論文の執筆に必要な実証分析を、自力で行うことができる実力がついたと信じています。これからも、授業を通じて培った能力を活かして、優れた修士論文を完成し、専門知識を活かして社会で大活躍してくれることを祈念しております。
研究・論文技法演習
あと半年頑張りましょう。
社会保障特論
当該科目（「社会保障特論」）を履修・受講中の大学院生の皆さん、授業評価をありがとうございました。また、総体的に高い評価をいただき、深謝しています。皆さんも前期中、一度も欠席することもなく、がんばってこられました。後期もがんばってください。私もテーマやシラバスもありますが、皆さんの研究テーマを踏まえうえて、期待に沿うような授業を行っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 不動産学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	25
回答者数(のべ)	20
回答率	80%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	2		10.0%	
2時間以上3時間未満	8		40.0%	
1時間以上2時間未満	3		15.0%	
30分以上1時間未満	6		30.0%	
30分未満	1		5.0%	
ほとんどしなかった	0		0.0%	
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	2		10.0%	
2時間以上3時間未満	5		25.0%	
1時間以上2時間未満	6		30.0%	
30分以上1時間未満	4		20.0%	
30分未満	3		15.0%	
ほとんどしなかった	0		0.0%	
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか				
強くそう思う	15		75.0%	
そう思う	5		25.0%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	
(4) 教員の説明は分かりやすかったですか				
強くそう思う	15		75.0%	
そう思う	5		25.0%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか			
強くそう思う	16		80.0%
そう思う	2		10.0%
どちらともいえない	2		10.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			20
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか			
強くそう思う	18		90.0%
そう思う	2		10.0%
どちらともいえない	0		0.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			20
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか			
強くそう思う	18		90.0%
そう思う	2		10.0%
どちらともいえない	0		0.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			20
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか			
満足	18		90.0%
やや満足	2		10.0%
どちらともいえない	0		0.0%
やや不満	0		0.0%
不満	0		0.0%
			20

【研究科の総評】

回答率が前年度の 47.1%から半減以下の 80.0%に改善した。一昨年の 100%は下回るものの、アンケートの趣旨に対する理解の浸透が改善傾向にある。なお改善の余地があることを研究科全体で共有する必要がある。

授業に対する学生自身の満足度は最も高い評価の“満足”が最も多く、90.0%に達している。“やや満足”10.0%を合わせると、肯定的な回答が 100%を占めている。授業の満足度は教員と学生が協働した結果であることから、学生の学ぶ姿勢の高さを評価したい。

予習時間について各年の最も多い回答をみると、2021 年：1 時間以上 2 時間未満、および、30 分以上 1 時間未満各 37.5%、2022 年：30 分以上 1 時間未満 52.9%、2023 年：30 分未満 62.5%と顕著な減少がみられたが、2024 年は 2 時間以上 3 時間未満が 40.0%で最多を占め、大幅な改善が見られた。これが上述の満足の高さの背景にあると評価している。ただし、2024 年も 30 分以上 1 時間未満が 30.0%あり、予習の取り組み姿勢に 2 極化がみられる。予習の取り組みの差異が授業の品質確保に影響する可能性が否定できないことから、事前学修姿勢の平準化が課題であることが示された。

復習時間について同様に比較すると、2021 年：1 時間以上 2 時間未満 75.0%、2022 年：1 時間以上 2 時間未満 35.3%、2023 年：1 時間以上 2 時間未満、および、30 分未満各 37.5%と減少傾向にあったが、2024 年は 1 時間以上 2 時間未満 30.0%が最多で、一定の改善があった。もっとも、2 時間以上 3 時間未満 25.0%、30 分以上 1 時間未満 20.0%とばらつきがみられ、復習についても取り組み姿勢の 2 極化が示された。予習を多くしている学生の復習時間が短い、または、その逆も考えられるが、予習、復習ともに取り組みが十分とは言えない学生がいる可能性も否定できないことから、授業への取り組み全般について事前の周知、および、各授業における徹底を敢行する必要がある。

教員による目的・目標の説明、教員の説明の分かりやすさは、ともに 75.0%が“強くそう思う”と回答している。また、教員の授業に対する意欲・熱意では 80.0%が、質問への対応の適切さでは 90.0%が“強くそう思う”と評価し、いずれの項目も“そうは思わない”“全くそうは思わない”は 0%であり、教員の取組みはおおむね適切なものであると受け取っている。もっとも、教員の授業に対する意欲・熱意では 10.0%が“どちらともいえない”と回答している。学生の学ぶ姿勢が改善していることに応えるためにも、改善が急務である。

授業を受け研究に対する意欲が増したかについては、授業が学問的な問いを深掘りする視点と影響力を有していたかを評価するもので、質問項目の中でも最も重要な質問の一つである。この質問について、“強くそう思う”90.0%、“そう思う”10.0%であり、その他の回答はいずれも 0%である。学問的な問いを深掘りする観点からもおおよそ適切に授業運営されていると評価する。

本件アンケートの対象学生は主として 2024 年度入学の 1 年次生であるが、学生数が少ないこと、および、入学までの背景が多様で、意欲、専門知識、語学力などが様々であったこと、さらに、学部からの進学者は学部在籍中に遠隔授業も多く、少人数形式での授業の経験が乏しいことなどから、教員が学生の実情に合わせた授業運営をおこなったことが反映された側面もあると考える。2024 年度は相対的に良い成果を上げたことを示すアンケート内容であったが、多様な背景と資質を持つ学生が大学院の授業を通じて成長するためには引き続き、教員と学生の協働が不可欠と考えている。

(不動産学研究科長 中城 康彦)

【学生向けコメント】

都市空間マネジメント特論
この講義では、過去事例や関連データから都市空間のあり方、マネジメント方法を整理、学ぶとともに、身近な都市空間を実際に見学し、そのあり方をまとめる演習的な要素を取りこみ、能動的に理解を深める授業運営を意識しています。
不動産企画・経営特論
この授業は博士前期課程の中で、不動産学基礎・概論に位置づけられている。授業で用いた教科書は不動産企画・経営特論の授業で利用することを念頭に著したもので、「一步踏み出す 5 原則」は不動産学研究科以外では学修しない切り口であるとともに、不動産学の展開の可能性を示している。具体的な土地で展開する賃貸事務所の企画経営（経営基本構想、賃貸事業収支計画、投資分析）では時間・空間・不動産の関係を重層的に学修した。
不動産研究方法論
おおむね肯定的に評価をしてもらえているようで安心いたしました。
不動産数理の基礎演習
授業満足度は高いが、予習・復習時間が十分ではなかったもので、今後はこのような問題点を意識して授業をより工夫することで受講者にとってはもっと有意義な授業になるように頑張りたい。
居住環境マネジメント特論
受講生の積極的なレジュメ作成と活発な意見交換によって、大学院らしい対話形式の創造型授業が展開できたと思います。ご協力ありがとうございました。
建築計画特論
今回の授業では、現実に生じているマンション問題について深い議論ができたと考えています。ここでの知見が、みなさんの研究の何らかのヒントになれば幸いです。授業運営にご協力いただき、まことにありがとうございました。